

# 伊差川世瑞先生胸像建立報告書 —昭和45年7月5日

znakao

琉球古典音楽野村流中興の祖  
伊差川世瑞先生 胸像建立報告書

1970年7月5日-

伊差川先生胸像建立期成会

## 伊差川世瑞先生胸像建立報告

1、建立年月日 1970年1月25日

2、総工費 \$ 3,253.00

3、収支決算書

### イ、収入の部

胸像現物寄贈	1,000.00	
現金寄附	2,253.00	
収入合計		\$ 3,253.00

### ロ、支出の部

胸像	1,200.00	
資材代	850.00	
工事費	392.00	
運搬賃	129.00	
除幕式費	475.15	
通信印刷費	109.74	
雑費	97.11	
支出合計		\$ 3,253.00

上記の通り報告致します

1970年7月5日

伊差川先生胸像建立期成会

会長 西島 宗二郎

委員 山里 将達 高安 高秋 上間 久市

〃 大城 孫次郎 上原 良善 平良 仁一

〃 長田 光松

工事施行 宮城 松藏

会計係 松田 幸徳

工事監督 田港 朝明



## 琉球音楽野村流中興の祖

### 伊差川世瑞先生胸像建設趣意書

伊差川世瑞先生は明治五年十一月鄭氏伊差川章親の子として那覇市久米村に生れ、明治二十四年羽地間切伊差川村在住の本家（伊差川村脇地頭であった）伊差川章秀氏嗣子なきをもつてその養嗣子となり、明治四十年那覇に転住されて、野村流の始祖野村安趙翁の高弟桑江良真先生に師事し、大正十一年には同流の奥義を極め、許されて瑞世倶楽部を設立し、本格的に子弟の育成に当られた。（門弟の養成は大正三、四年頃から始まる）当時の琉球音楽界は、ともすれば些末に去り、相寄り相助け、一丸となつてその真髓を発輝すべき方向を見失わんとする、いわゆる群雄割拠的状态であったが先生は「本に帰る」道を明示せられ身を以て大同団結の範を示すべく、自らの高くすぐれた芸能と人徳を以て大正十三年野村流音楽協会を設立せられ推されて初代理事長になられた、現在の琉球音楽野村流はこの時に今日の繁栄の基が築かれたと申しても良いであろう。その後昭和十二年三月急逝せられるまで引続き会長の重職にあられたのである。昭和十年八月には門弟の世礼国男氏等の協力を得て、琉球古典音楽において始めて声楽歌唱の旋律を追いながら精密に採譜したという意味で画期的な大事業であり、音楽文化史上不朽の名著と言われている「声楽譜附工工四」を発売せられたのであるが吾々はそれを教本として学び、現在数千名の音楽愛好家はその著本による恩典に浴しているのである。



伊差川先生がその子弟を教育する情熱と意欲は燃えるような強烈さであり、孔子のいわゆる「教えて倦むことを知らない」心の持主であられ、また寛仁大度の雅量を持たれて、人をそしり他を悪評するということは夢にもない実に文字通りの君子人であられたのである。

このような人格と才能を以て居られたからこそ野村流古典音楽を今日のゆるぎなきものにされ琉球古典音楽発展の功労者としてその足跡は実に歴史的な偉大なるものがあります。

今回先生の御遺徳と御功績を永遠に記念すべく、直接先生の御指導を受けた者及び何等かの形で先生の御功績から恩恵を受けた有志が相集い、先生の三十三忌に当り、胸像をゆかりの地に建立すべく発起した次第であります。皆様方の御賛同を得てこの事業を盛んにしたい念願でありますから御賛同下さいませよう御願致します。なお御芳志のある方は左へ御記入の上、西島、又吉、川田に御渡し下さい。

一九六九年十月吉日

建立発起人（順不同）

西島	宗二郎	照屋	林山
又吉	全敬	高安	高秋
川田	松夫	宜保	安昌
新城	徳助	平良	久豊
阿波根	朝松	松田	平昌
真栄田	義見	高嶺	善継
金城	亀助	仲嶺	盛竹

那覇事務所 那覇市若狭町一の二六六 川田方

電話 八一三七〇五

国頭事務所 今帰村字与那嶺三七 西島方

伊差川世瑞先生胸像建立報告書－昭和45年7月5日

<http://p.booklog.jp/book/97847>

著者：野村流音楽協会

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/znakao/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/97847>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97847>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ